

日本精鉱

第二製品倉庫を更新

中瀬製錬所、積雪対応で

樹脂難燃助剤に使われる三酸化アンチモン大手の日本精鉱は、中瀬製錬所（兵庫県養父市）の第二製品倉庫を更新した。約40年ぶりの建て替えて、積雪対応など合理化対策を行った。既に建屋は完成しており、今後搬入を

行う。また、今年7月には中間作業場を建設した。投資額は合わせて約1億円。第二製品倉庫は面積675平方メートル。荷姿がフレコンバッグの製品の保管や、原料受入に使っている。同地域は、冬季の降雪量が多いこ

とで知られる。従来の倉庫は1976年に建設されたもので、屋根に積雪しやすい構造となっていた上に、老朽化が進んでいた。今回の更新では、落雪しやすい屋根構造を採用し、散水による消雪装置と排水路を設置

した。積雪による事故や製品に被害が出ることを未然に防止する目的がある。また、建て替えに際して作業を行う動線も改善した。今年7月には使用しなくなった脱硫装置を撤去した跡地に中間作業場を建設。面積は1

中瀬製錬所の第二製品倉庫



99平方メートルで、需要家への製品供給をスムーズに行うため中間製品を安全に保管する能力

である棚田米や山椒の佃煮などを贈り、評判は上々だったという。

を増強した。こちらにも散水による消雪設備と排水路を設置している。

また、今年創業80周年を迎えた同社はこの秋、株主還元の一環として、養父市の特産品